

4. ゲート馴致

4. ゲート馴致

1) 心構えと馴致時期

- ・すべての馴致過程に共通して言えることは、慌てず馬の理解にあわせて進めることである。
- ・ゲート馴致は、引き馬やドライビングと併せて開始する。
- ・騎乗後の馴致開始は、ゲート通過時に騎乗者の心理状態が影響を及ぼし、馬に不必要な不安感を与えるため適切ではない。
- ・ゲート通過が可能になれば、毎日の調教時に通過し、ゲートが安心できる場所であることを教える。
- ・一旦、恐怖心を植え付けると、その除去は容易ではないことから、通過の際は常に細心の注意を払う。

2) ゲートに対する馴致

- ・ゲートは、日々の運動中に身近に見える場所に設置する。
- ・引き馬やドライビングの段階において、可能な限りゲートに対する恐怖心を除去する。
- ・立て掛けた2枚のついたての間や、幅の広い練習用ゲートなどを、事前に通過させておくことも有用である。
- ・二人一組となり、一人が必要に応じて後ろからプレッシャーを加えることにより、スムーズに実施できる。



幅の広い馴致用ゲートに引き馬で入れる。

3) ゲートの通過および駐立馴致

- ・引き馬やドライビングの過程において、十分通過させておく。



ドライビングでのゲート通過



ドライビングでのゲート通過

- ・正式ゲートは幅が狭く、馬は側壁に触れて驚く場合がある。このため、初期には幅の広い馴致用ゲートを利用する。敏感な馬の場合、騎乗段階になってから、誘導馬に追従させる通過も有効である。

4) 駐立させて後ろ扉を閉鎖

- ・前扉が開いた状態で駐立させ、後軀を十分にパッティングした後に、後ろ扉を閉める。
- ・馬が落ち着いているようであれば、騎乗者の扶助で少し後退させて、扉に臀部が触れることを経験させる。
- ・この馴致は前方に突進する可能性があるため、騎乗して実施する。十分に安全を確保して前に人が立つことにより、落ち着く場合もある。
- ・馬が落ち着いていれば、手で前扉を閉めて、最終的なゲート内での駐立を習得させる。



臀部をよく触る。

5) 前扉を閉鎖したゲートイン

- ・あらかじめ前扉を閉め、騎乗した状態で人が引いて枠内に引き入れる。
- ・怖がるようであれば、ゆっくり後退させて納得させてから、再度引き入れて駐立させる。

6) 後ろ扉を閉鎖した駐立（完全閉鎖）

- ・閉所でも恐怖感や興奮をみせることなく、安心して静かに駐立することを教える。
- ・達成時には、声をかけて愛撫する。また、青草やペレットなどを褒美として与えることも有効である。



完全閉鎖での駐立

- ・横に慣れた馬を立たせたり、人を扉の前に配置して安心させる。

7) 発進馴致

- ・前扉が開いたら、騎乗者の扶助により、常歩で出することを教える。
- ・最初は前扉を静かに手で開けた後、保持者とともにゆっくり枠外へ出す。この作業を興奮することなく、落ち着いて消化できれば、次は機械的に前扉を開放する馴致を実施する。



前扉をゆっくり開けて常歩で出る。

- ・この段階では、前扉の開放とともに、常歩でスムーズに出ることができれば合格であり、ここまでが育成牧場の担当するゲート馴致である。
- ・最終的な駆歩発進は、トレセン厩舎の豊富な経験をもつ騎乗者に委ねる。

<留意点>

- ・引き馬馴致と騎乗馴致の長所と短所を理解する。
- ・枠内で突進する気配を見せる場合は、原点に戻り、引き馬あるいはドライビングにより再馴致する。
- ・騎乗馬を引いて馴致する場合は、騎乗者と引き運動者のいずれがリーダーかを明確にしておく。これは、両者から指示を出すと混乱するからである。



日々の調教の節目に必ず通過する。



調教に向かう前に毎日必ず通過する。

4. ゲート馴致

8) 育成場におけるゲート馴致の目標

ゲート馴致の達成試験は、以下の手順で実施する。数週間の間隔を開けた2回の試験において、いずれもスムーズに達成できることを目標とする。

- ・ 騎乗状態で前扉を閉めたゲートに入る。引いて入っても構わない。
- ・ 後ろ扉を閉める。
- ・ 興奮することなく、10秒間程度、駐立できることを確認する。
- ・ 前扉を開け、騎乗者の扶助により常歩で出る。

ブリーズアップセール売却馬は、この目標をクリアしている。これらのトレセン入厩後のゲート試験状況は良好であることから、上記の達成試験は育成段階の目標として適切であると考えている。